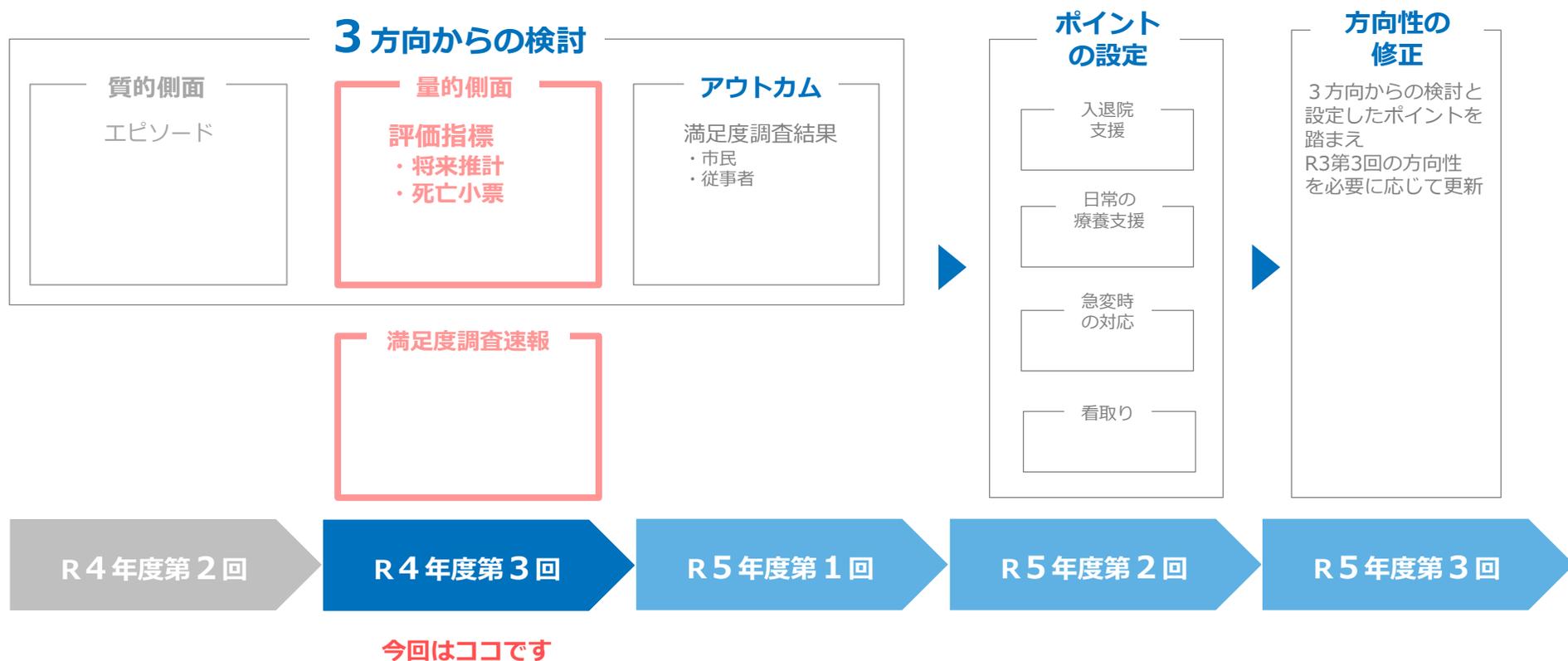


**本人と家族の意向に沿った
多職種連携の推進について
～量的側面からの検討～**

これまでの振り返り

本人と家族の意向に沿った多職種連携の推進

- テーマを実現していくためには、テーマに対する**具体的な共通認識**が必要ではないか。
- 共通認識を図るために、**4つの場面毎のポイント**を設定したい。
- ポイントを設定するために「**テーマに対する現状や課題**」を**3方向から検討**。



質的側面からの検討

- ①本人の意向に沿った支援をする上で大切にしていること
- ②本人の意向に沿った支援を多職種で実現していく上での難しさ
- ③自分や自分の家族が医療・介護を受けるとしたら、支援者に大切にしてほしいこと



本人の意向に沿った支援をする上での大切なこと

お互いを理解しようとする姿勢

本人・家族と専門職間，多職種間で情報・認識，考え方にズレがある。

本人・家族と支援者，及び支援者同士での**情報共有が大切**。

日頃のコミュニケーション

傾聴し，**気持ちを受け止める**ことが必要。

信頼関係ができて，初めて本人・家族は**本音**が言える。

事前意見のお願い

今回の狙い

ポイントの設定に向け、テーマの現状と課題を**量的側面から**検討する

P8以降をご覧ください

事前意見にてご回答ください

- 問1 すべての委員の皆様
- 問2 医療・介護従事者、学識経験者の皆様

テーマを実現していく上で必要なことを
委員の皆様の回答を通じて、検討させていただきます

回答フォームはこちら



問 1 すべての委員の皆様，ご回答ください

2040年頃に
あなたやあなたの家族が
在宅医療や介護サービスを利用することになったら

**どのようなことが
心配や不安になりそうですか？**

サービスを受ける側からの視点で，ご回答ください。

4つの場面のうち，あてはまる場面にご記入ください。

※すべての場面を埋める必要はありません（重複可）

（4つの場面とは：入退院支援，日常の療養支援，急変時の対応，看取り）

問2 医療・介護従事者，学識経験者の委員の皆様，ご回答ください

今後，より多くの在宅療養者に対する
サービス提供が求められる中で
本人と家族の意向に沿った支援を行うために

**同職種間・多職種間の連携※で
できそうなことは何ですか？**

サービスを提供する側からの視点で，ご回答ください。
4つの場面のうち，あてはまる場面にご記入ください。

※病院所属の委員の皆様 : 病院間，病院と在宅との連携でご回答ください
包括所属の委員の皆様 : 在宅間，病院と在宅との連携でご回答ください
学識経験者の委員の皆様 : 病院間，在宅間，病院と在宅との連携でご回答ください

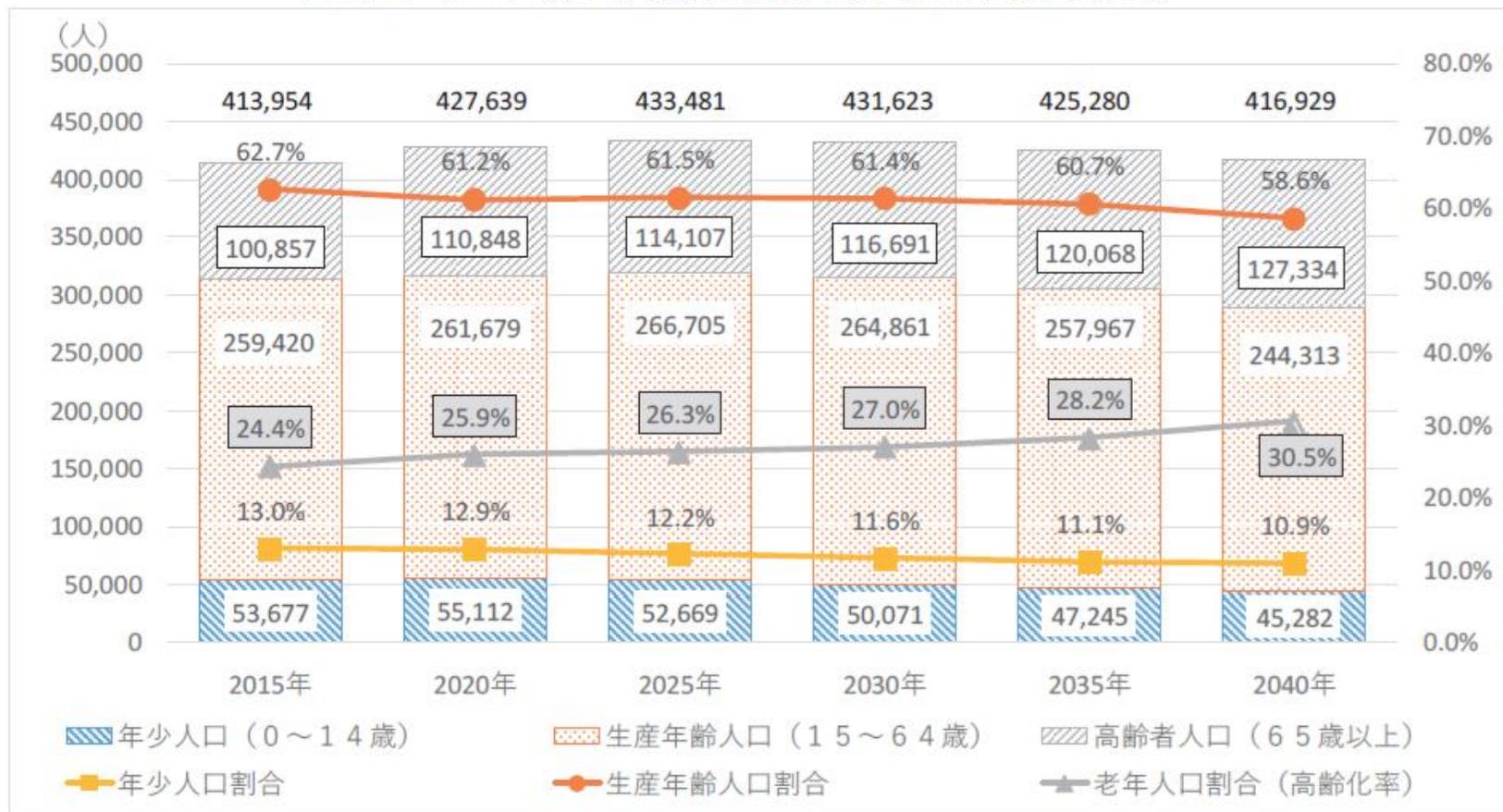
※すべての場面を埋める必要はありません（重複可）

人口・利用者等の推計

柏市の年齢層別人口の推移と見込み

- 柏市の総人口及び高齢者を支える現役世代は、**2025年頃をピークに減少**。
- 一方で高齢者人口は増加を続け、**2040年には高齢化率が30%**を超える見込み。

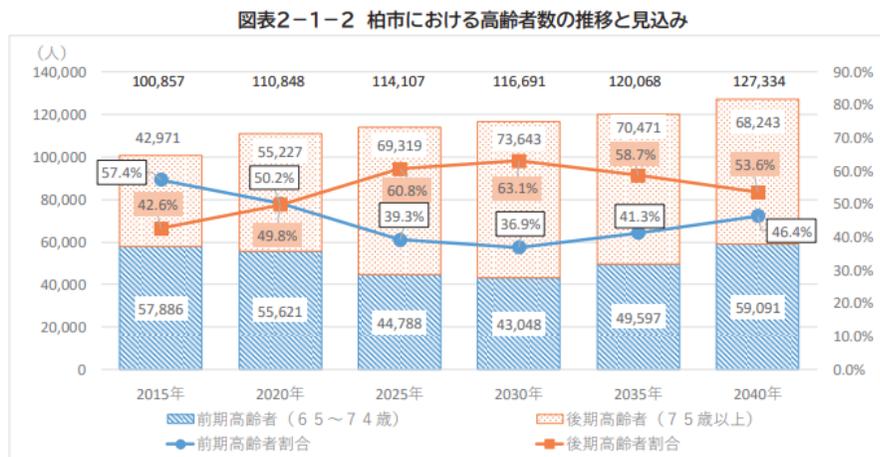
図表 2-1-1 柏市の年齢層別(3層)人口の推移と見込み



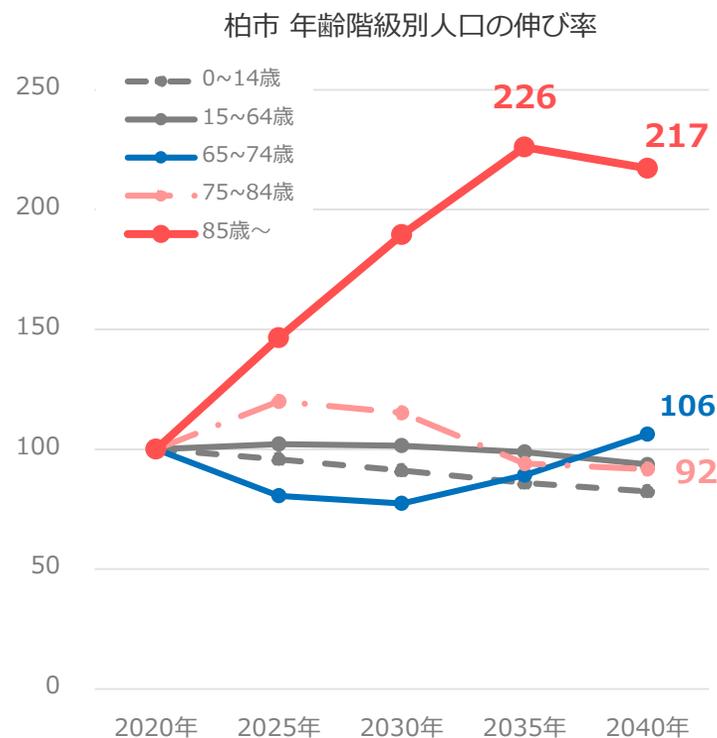
※第8期柏市いきいきプラン21より抜粋

柏市の高齢者数の推移と見込み

- **2025年**には、高齢者に占める後期高齢者率が**60%**を超える見込み。
- 年齢階級別にみると、2040年には**85歳以上人口が2020年の2倍以上**になる見込み。



※第8期柏市いきいきプラン21より抜粋

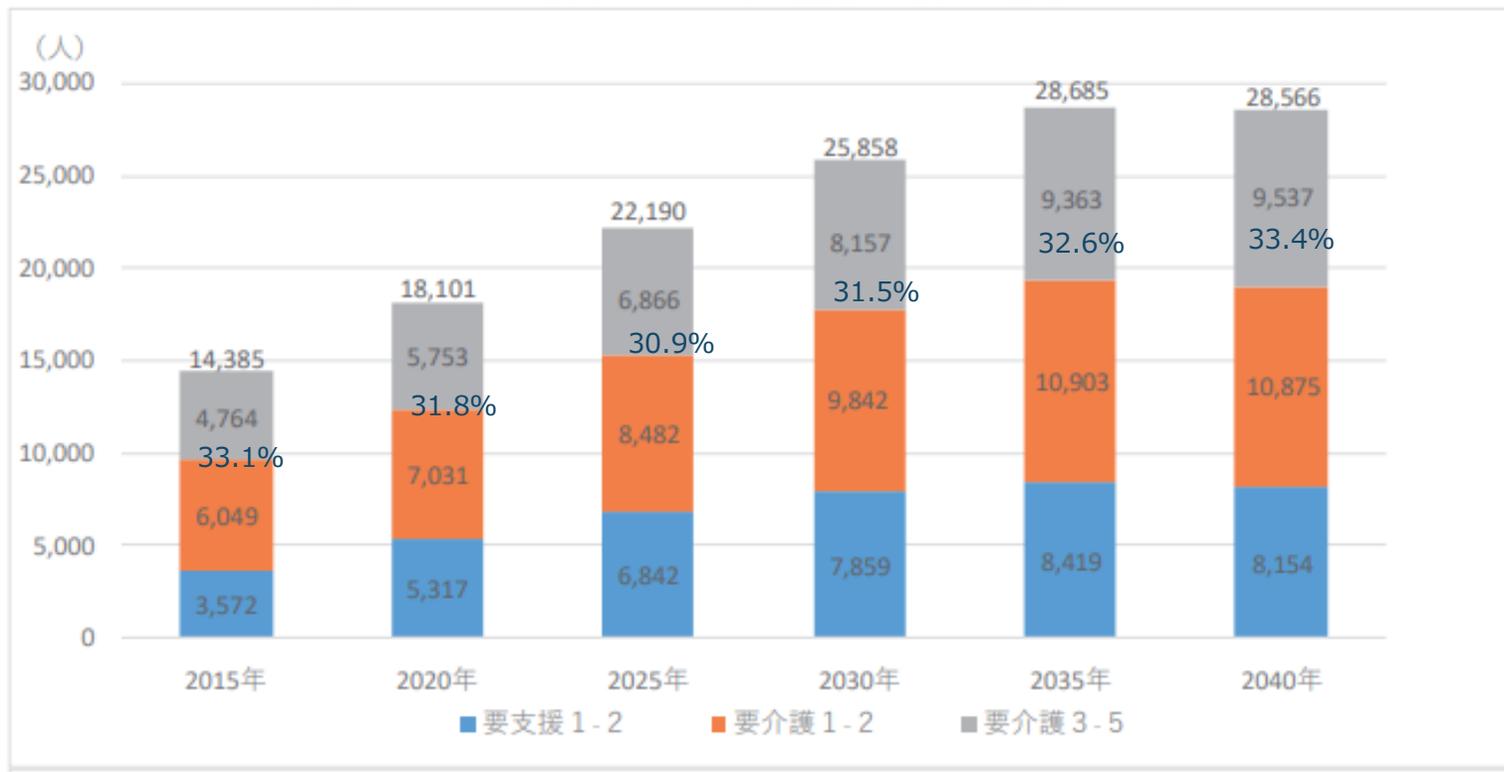


※柏市将来人口推計より作成

要介護認定者数の推移と見込み

- 要介護認定者数は後期高齢者が増加することに伴い、2025年に2万人を超え、2035年には、2万9千人に迫る。
- 2040年には、認定者に占める要支援及び要介護1～2の割合が減少する一方で、医療・介護ニーズの高い要介護3～5の割合が増加。

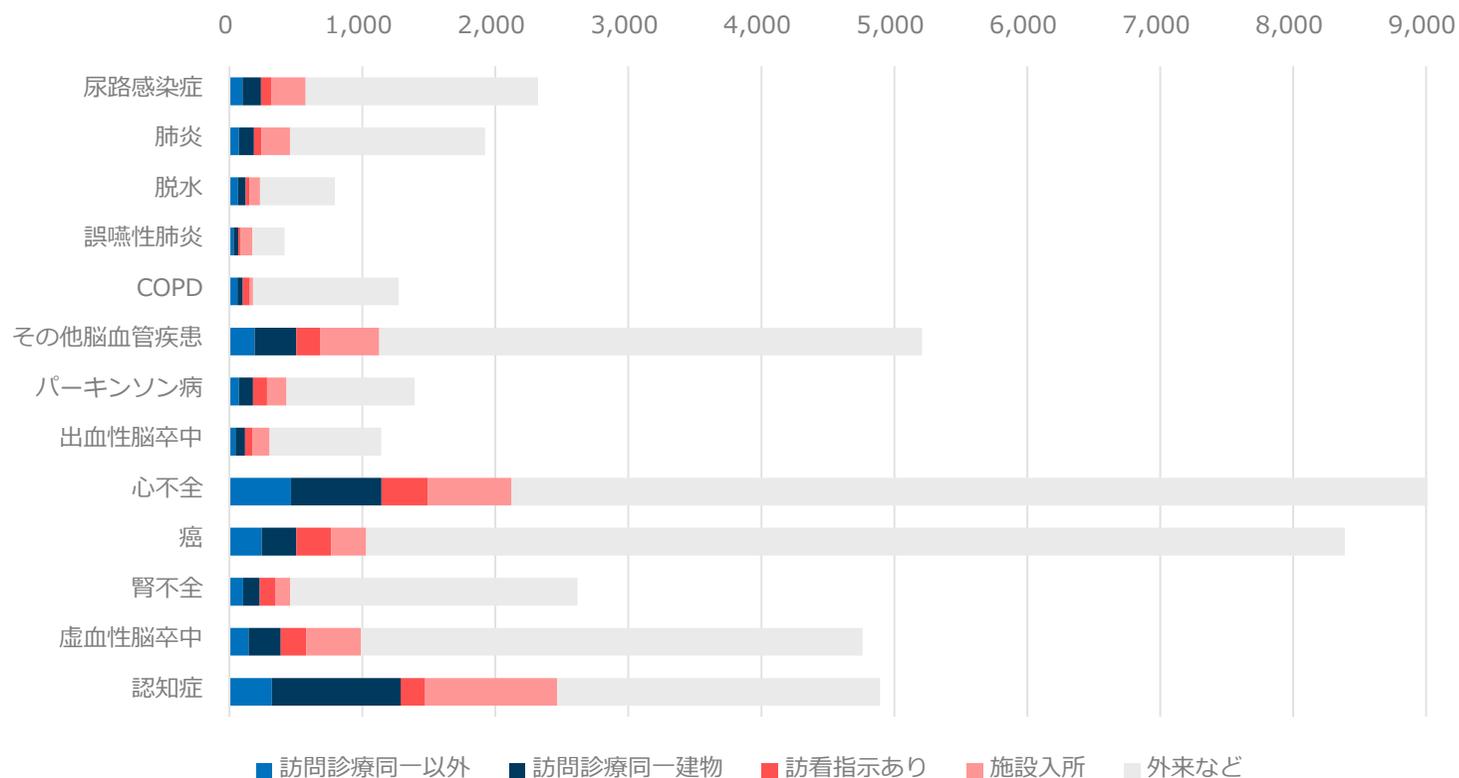
図表2-1-3 柏市における要介護認定者数の推移と見込み



※第8期柏市いきいきプラン21より抜粋

要介護認定者の疾病の現状

- 要介護認定者が抱える疾患としては、心不全が最も多く、次いで癌が多い。
 - 一方、在宅サービス利用者※においては、認知症と心不全が多い状況である。
- ※訪問診療同一以外、訪問診療同一建物、訪看指示あり



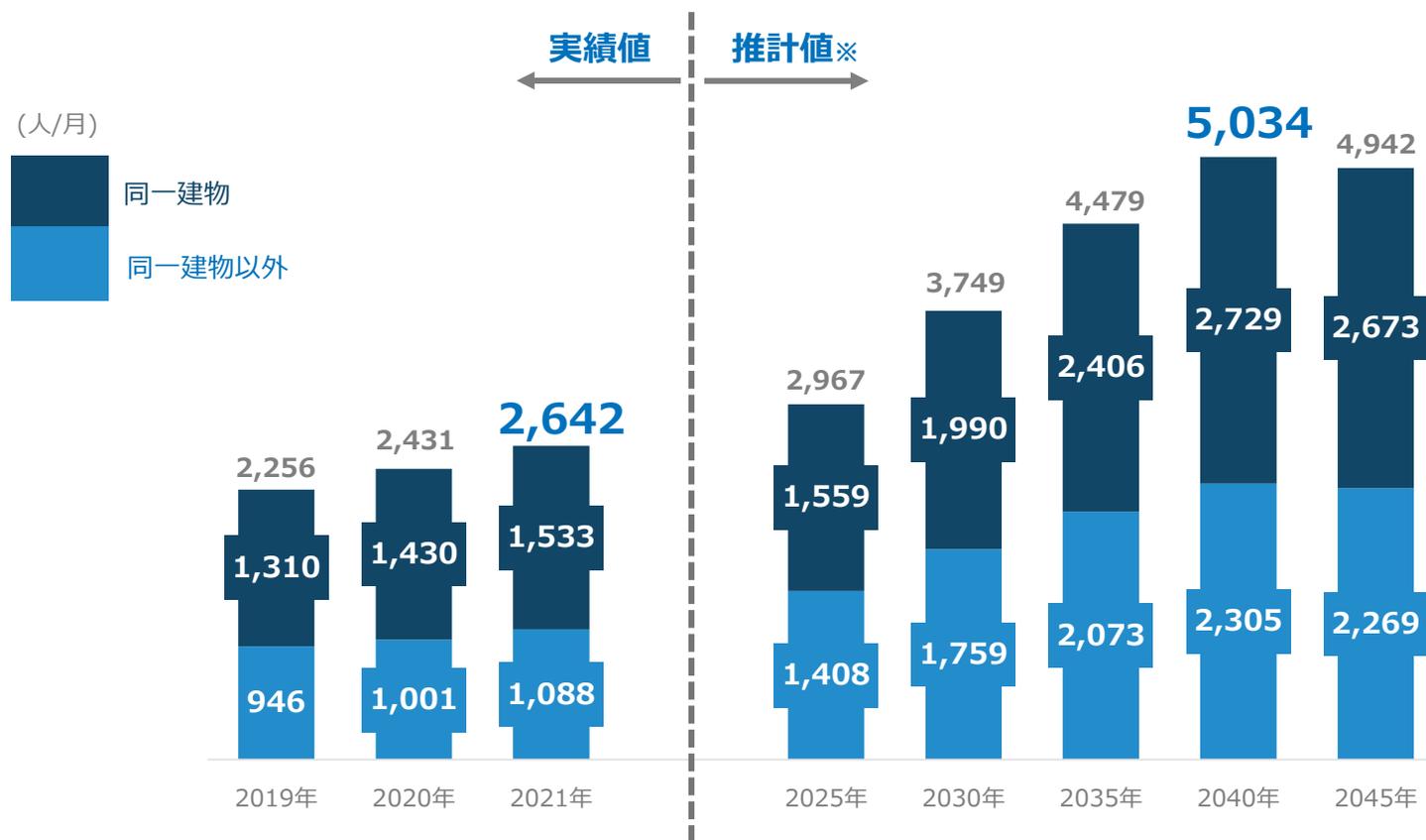
※2020年10月の介護保険サービス利用者のみ算定

※複数疾病がある場合、重複あり

※訪看指示あり:訪問診療・施設入所ともになしで2020年4月から10月に訪問看護指示書が出ている利用者

訪問診療利用者の推移と見込み

- ・ 高齢者数の増加に伴い、訪問診療利用者も増加。
2040年の訪問診療利用者数は、現在の**約2倍**に増える見込み。



出典：国立社会保障・人口問題研究所日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）
KDBデータより推計

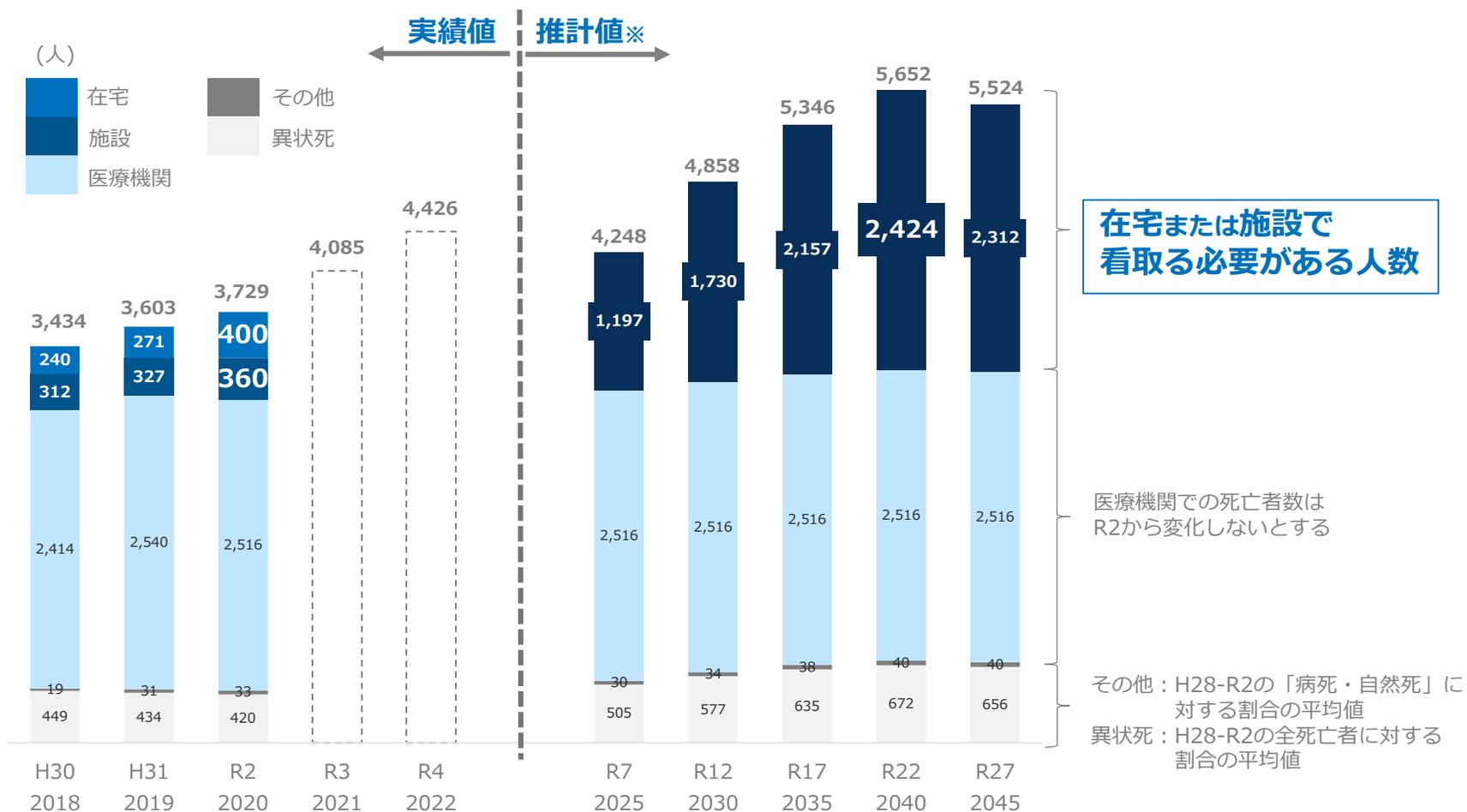
算定項目：在宅患者訪問診療料 ※後期高齢者医療保険のみ 国保・社保・生保除く

※各数値は月平均、暦年で集計

死亡場所別の死亡者数の推移と見込み

- 死亡者数は増加する一方，病床数は大幅に増えないため

2040年に在宅または施設で看取る必要がある人数は，2020年の**約3倍**に増える見込み。



出典：令和3年度版柏市死亡小票分析，国立社会保障・人口問題研究所日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）
柏市統計書（令和3年度版），柏市令和4年毎月常住人口より推計

※推計値は5年間の年平均

報酬算定の実績

※出典：令和3年度第2回連携協議会資料

データの集計方法について

利用データ：診療報酬＝KDB 介護報酬＝レセプト（介護予防なし）

対象者：柏市民（保険者が柏市）

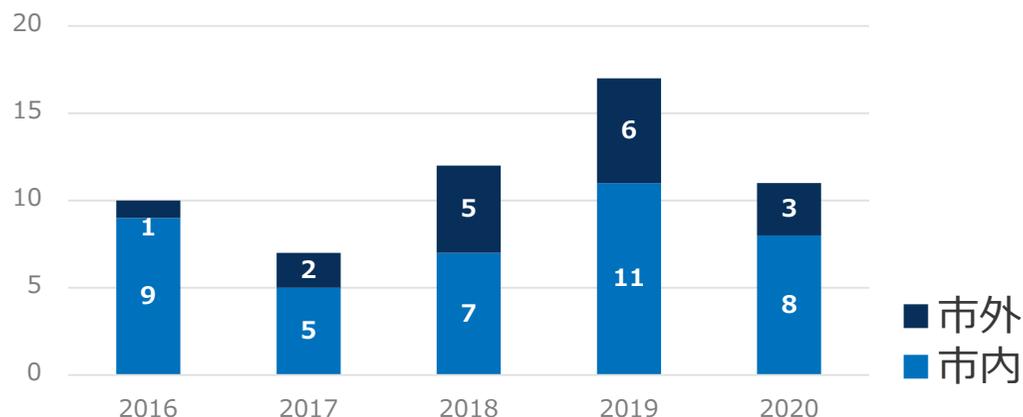
集計期間：平成28年度から令和2年度（2016年度から2020年度）

提供回数及び人数が月平均の理由：日常療養に必要なサービス提供は月単位で繰り返し発生するため、供給量（キャパシティー）の分析には月平均が妥当となる。

入退院 | 退院時共同指導料 1 (診療報酬) の算定状況 (診療所)

ストラクチャー

提供事業所数



退院時共同指導料 1 とは

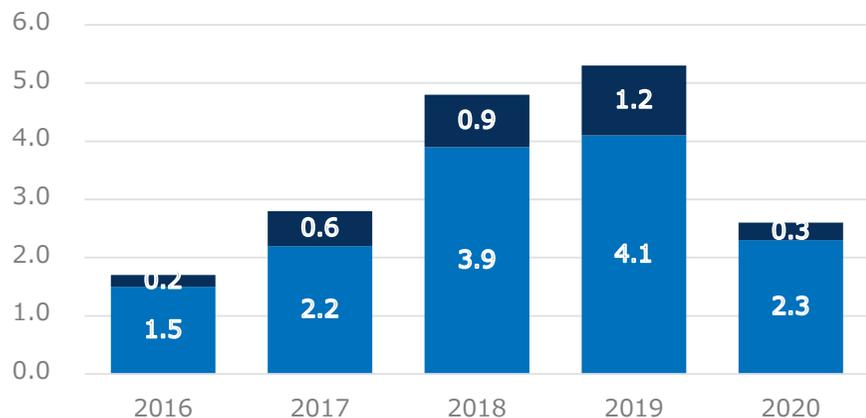
保険医療機関に**入院中の患者について**、地域において当該患者の退院後の在宅療養を担う保険医療機関の保険医又は当該保険医の指示を受けた保健師、助産師、看護師、准看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士が、当該患者の同意を得て、**退院後の在宅での療養上必要な説明及び指導を**、入院中の保険医療機関の保険医又は看護師等、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士と**共同して行った**上で、文書により情報提供した場合に、当該入院中1回に限り、**在宅療養担当医療機関において算定**する。

入院中の患者の退院後の必要なサービス等に関する調整・取組に対する報酬。

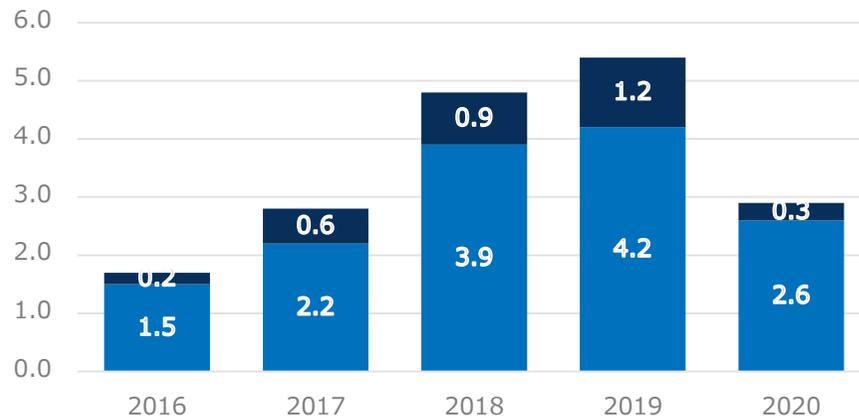
病院からの退院時の連携状況を把握できる。

プロセス

人数 月平均



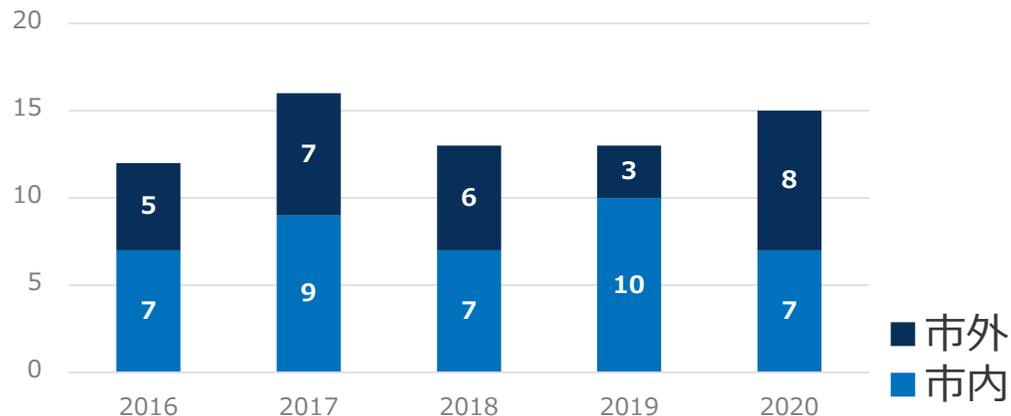
提供回数 月平均



入退院 | 退院時共同指導料 2（診療報酬）の算定状況（病院）

ストラクチャー

提供事業所数



退院時共同指導料 2 とは

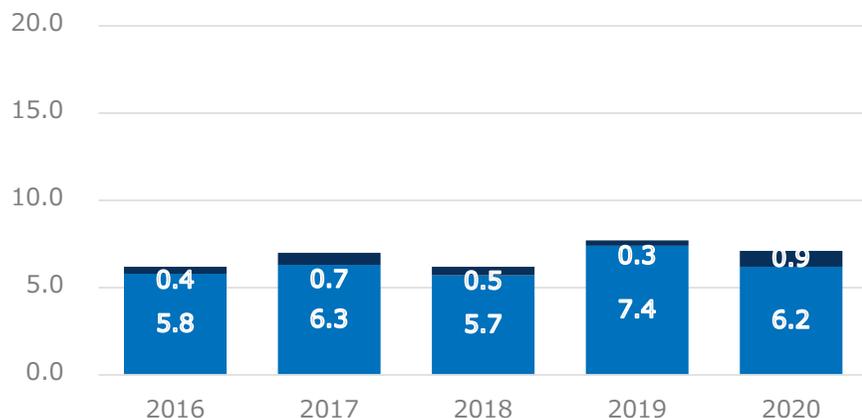
保険医療機関に**入院中の患者について**、当該保険医療機関の保険医又は看護師等、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士が、入院中の患者に対して、当該患者の同意を得て、**退院後の在宅での療養上必要な説明及び指導を**、在宅療養担当医療機関の保険医若しくは当該保険医の指示を受けた看護師等、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士若しくは社会福祉士又は在宅療養担当医療機関の保険医の指示を受けた訪問看護ステーションの看護師等、理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士と**共同して行った**上で、文書により情報提供した場合に、**当該患者が入院している保険医療機関において**、当該入院中 1 回に限り算定する。

入院中の患者の退院後の必要なサービス等に関する調整・取組に対する報酬。

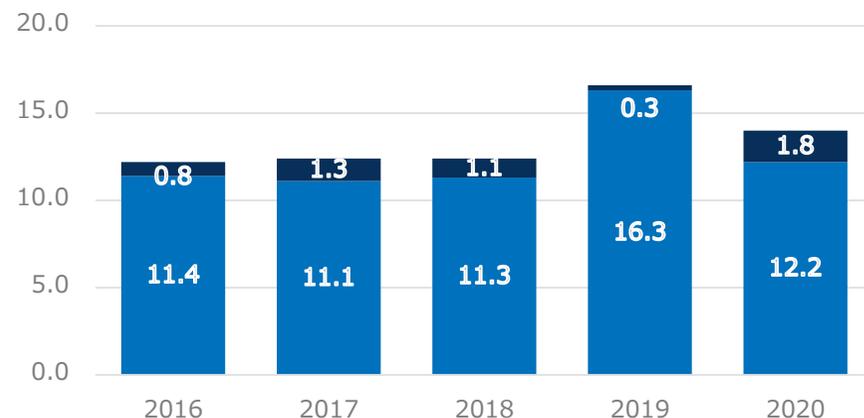
病院からの退院時の連携状況を把握できる。

プロセス

人数 月平均



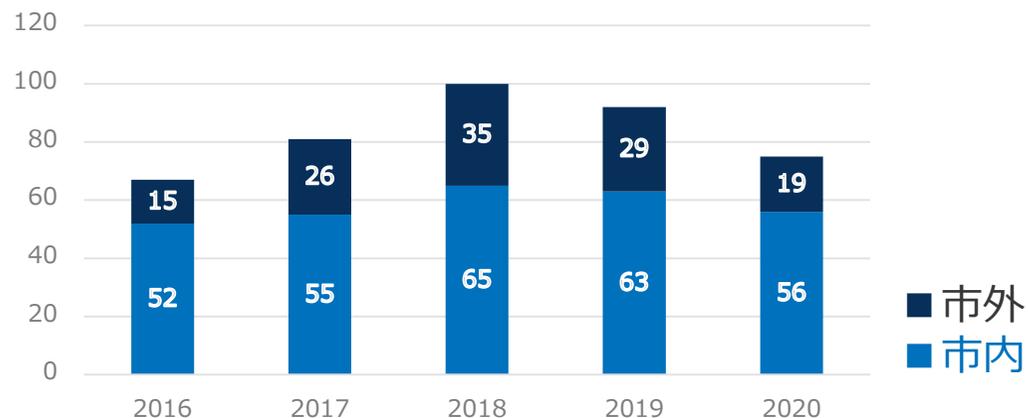
提供回数 月平均



入退院 | 居宅支援退院退所加算 (介護報酬) の算定状況

ストラクチャー

提供事業所数



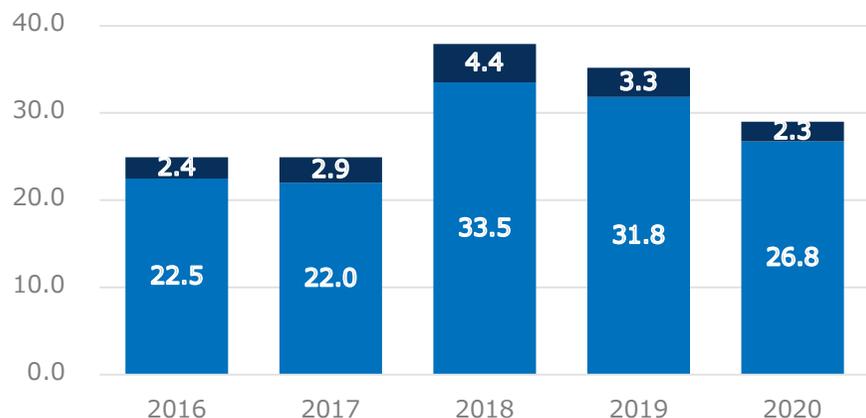
居宅支援退院退所加算とは

退院・退所に当たって、病院若しくは診療所又は地域密着型介護老人福祉施設若しくは介護保険施設の職員と面談し、利用者に関する必要な情報を得た上で、居宅サービス計画を作成し、居宅サービス等の利用に関する調整を行った場合に算定できる。

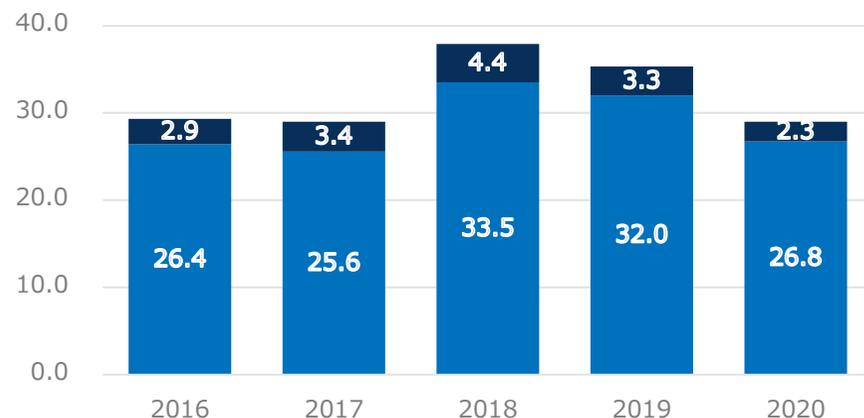
病院等から得た情報で、介護支援専門員が介護サービス等の利用に関する調整を行った際の報酬。
病院からの退院時の連携状況を把握できる。

プロセス

人数 月平均



提供回数 月平均



まとめ

- 柏市の高齢者人口は年々増加し、2040年には高齢化率が30%を超える見込み。
- 高齢者人口の増加に伴い、要介護認定者数も増加。2040年には、特に医療・介護ニーズの高い要介護3～5の認定者数が1万人に迫り、2020年の約1.6倍に上ると推計される。
- 訪問診療をはじめとする医療・介護サービスの需要が高まり、在宅または施設で看取る必要のある方が大幅に増えることが予測される。